

# アーア

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会  
2014年 冬号  
第77号



長谷寺茄藻庵

---

---

目次

---

---

■ 珠光茶会のお知らせ	山本 規子	1 ページ
■ 京都大学近代建築見学会に参加して	瓶割 環	3 ページ
■ パーキングパーミットの講演を受けて	梶谷 治美	5 ページ
■ 私と建築	篠田 三起子	6 ページ
■ 宮崎眞友美さんを偲んで		7 ページ
■ 今後の事業予定		8 ページ

◇ 珠光茶会のお知らせ ◇

女性委員会委員長 山本 規子

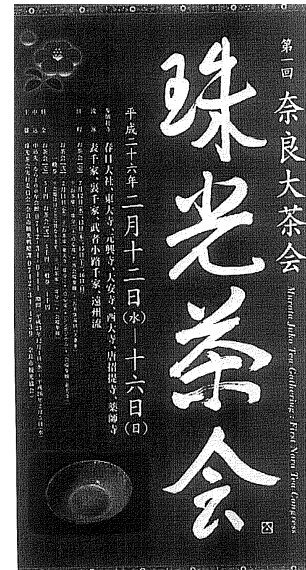


この2月、奈良市において、三千家（表千家、裏千家、武者小路千家）が一堂に会し、奈良市内の七社寺や、歴史的な街並みが残る「ならまち」のお茶室を会場として、予定来場者数4,000名の大茶会が催されるということは、新聞などでご存知の方も多いと思います。普段から本格的にお茶に親しんでいる方だけでなく、お茶に親しむ機会の少ない市民や観光客の方など、幅広い層にお茶に親しんでいただけるようなイベントとなる予定です。

また、期間中は、お茶に関するシンポジウムや、「ならまち」でのエクスカージョンなども開催され、「わび茶」の祖として奈良出身の村田珠光に着目し、現在の茶道の源流とも言える、奈良のお茶文化が紹介されます。

このエクスカージョンの中の催しのひとつとして、奈良県建築士会女性委員会が参加させていただくことになりました。女性委員会では、長年お茶室を勉強し、「大和茶室探訪Ⅰ、Ⅱ、Ⅱ-2」をまとめ上げた実績と、遷都1300年祭の際皆が協力して作った展示物が残っており、このまま埋もれさせておくにはもったいなく、どうかして再度紹介できればと考えておりました。この度の奈良市の企画に参加することにより、これらを効果的に活用することができる機会を得たわけですが、それと共に主催者の方からは、歴史的に、建築的に多方面からアプローチした展示内容により、この企画に一層の奥行きが生まれると期待の声が上がっております。

建築士会としての展示物を意識し、茶室の細部意匠についてのパネルも新たに製作していただきましたので、遷都1300年祭の時のものから、一層充実した展示内容になると思われまます。



珠光茶会概要（奈良市観光戦略課 報道資料より）

開催日時 平成26年2月12日(水)～16日(日)

午前9時～午後4時

主催 珠光茶会実行委員会

（七社寺の代表と奈良市長で構成/事務局は  
奈良市・奈良市観光協会）

会場・春日大社、元興寺、西大寺、大安寺、  
唐招提寺、東大寺、薬師寺

→ 茶席、点心席

・八窓庵（奈良国立博物館内）

名勝大乘院文化会館 → 茶席

・「ならまち」

→\*特別展：茶道具、伝統工芸、他展示

\*シンポジウム：

日時2月14日午後1時～3時

場所 東大寺総合文化センター

金鐘ホール

《第一部 基調講演》

「奈良の茶の湯～日本のおもてなし文化～」

熊倉 功夫氏

《第二部 パネルディスカッション》

パネリスト 熊倉 功夫氏、有馬 頼底氏、  
神津朝夫氏（予定）

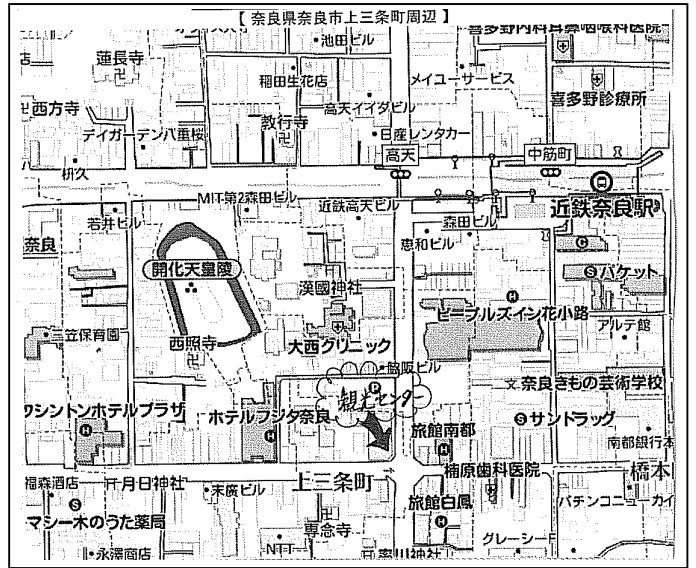
\*エクスカージョン：「ならまち」で実施されているお茶席  
や特別展を、観光ボランティアガイドの案内で散策

※「ならまち」以外のお茶席は、予約申込みが必要  
申込み：なら 100 年会館

電話 0742-34-0111

詳しくは奈良市のホームページをご覧ください。

また、お手伝いは無理の方でも、是非会場まで足  
をお運びください。



奈良市観光センター（女性委員会展示）案内



展示イメージ図

## 女性委員会展示

茶の由来と大和の茶室

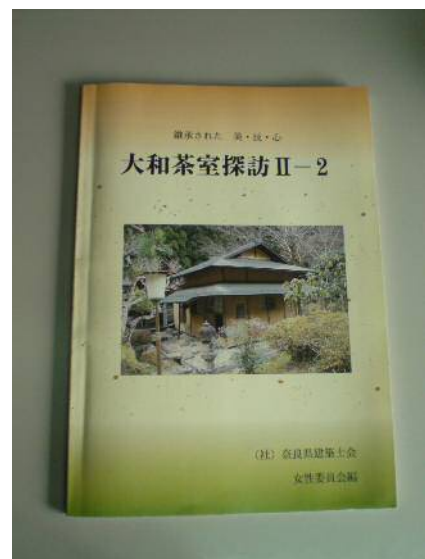
～おもてなしをささえる か・た・ち～

開催日 平成 26 年 2 月 12 日(水)～16 日(日)

場所 奈良市観光センター1階 多目的スペース  
奈良市上三条町 23-4  
(近鉄奈良駅前 高天の交差点を南行き、  
やすらぎの道と三条通りの交差点北西角)

内容 \*パネル展示 茶の由来  
「大和茶室探訪」抜粋  
茶室の細部意匠  
赤膚焼、茶笥の里の紹介  
\*原寸大茶室模型の展示  
\*起こし絵ワークショップ

当日のお手伝いを願う手紙は、お手元に届  
いていると思います。もし返信がまだの方がいらっ  
しゃいましたら急ぎ FAX をお願い致します。



京都大学近代建築見学会に参加して  
瓶 割 環



1月2日、近畿建築士会協議会女性部会の合同見学会が開催され、京都大学を訪れました。私事ではありますが、大学卒業後6年間、京都大学吉田キャンパスの傍に住んでいた事もあり、出町柳駅から講演会場へ向かう道中は、懐かしさで一杯でかなりの興奮状態でした。

午前中は、京都大学医学部創立百周年記念施設『芝蘭会館別館』にて、京都大学大学院工学研究科教授、高田光雄先生と、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授、石田潤一郎先生の講演が行われました。

まず、高田先生から『京都大学における住宅研究』のお話を伺いました。全国にたくさんの大学・専門学校がありますが、住宅の研究を行っているところは意外にも少なく、日本では京都大学が最も古くから住宅の研究を行い、今も継続しているとの事でした。その京都大学における初期の研究は、1920年に新設された京都帝国大学工学部建築学科の建築学第二講座初代教授に着任した武田五一氏が、「計画法」とともに「住宅論」を講じる所から始まります。武田氏は、住宅が単に雨露を凌ぐための建築ではなく、「家庭の一要素」として「家庭の安息、団欒、子孫の教養」を担当し、生活・成長の基礎となるという意義を有するとし、住宅の必要性を宣言しています。この頃から、社会の中での民衆の位置付けが変化し始めたようです。それに伴い、住宅建築の重要性も高まっていったようです。

その他にも、藤井厚二氏の実験住宅の試み等で、日本独自の条件をふまえた住宅研究の重要性を説いた事や、西山卯三氏の庶民住宅の研究に至るまで、住宅研究の歩みを聞かせて頂きました。

住まいとは何か？如何なるべきか？この問いかけを忘れてはいけないという言葉は、大変印象的でした。

た。住宅・住まいというものは、時代と共に必要性も問題点も変わっていきませんが、そこから目をそらしてはいけないと感じました。

次は、石田先生より『京都大学キャンパスの近代建築』についての講演でした。現在の京都大学吉田キャンパスは、明治22年開学の第三高等中学校と明治30年開学の京都帝国大学によって生み出されました。第三高等中学校は元々大阪で設立され、京都に移転されたそうです。最初のキャンパスの設計は、文部省会計課建築掛技師の山口半六氏と久留正道氏で、煉瓦造2階建ての本校、物理学・科学両実験場の3棟が建てられました。



その中で物理学実験場だけが現存していて、ノーベル賞受賞者の湯川秀樹氏、朝永振一郎氏らもここで研究されていたので、別名「ノーベル賞の館」と呼ばれているそうです。

他にも構内にある各建築物の説明をして頂き、午後からは実際に本部構内の見学をさせて頂きました。

広大な敷地とはわかっていたつもりでしたが、実際に歩いてみると想像以上のものがありました。(それでもまだ一部なのですが・・・)

まずは京都大学と言えば、シンボルの時計台です。



第三高等中学校設置時に建てられた初代の本館が、大正元年に焼失した後、大正14年に再建されたそうです。高田先生のお話にもありました、教授の竹田五一氏が主導で建築されたそうです。鉄筋コンクリート2階建てで、内部には武田氏が交流のあったF.L.ライトの手法も見え、またイスラム風の装飾も用いられています。

平成15年に、創立百周年記念行事の一環で改修が行われました。内部には歴史展示室があり、京都大学の創立から今日までの歴史がわかる、映像や模型などがたくさん展示されています。



私の京都大学のイメージの中には、もっと煉瓦造の建物が多かったのですが、構内を巡ってみると意外に少なかったように思います。ただ、現存する煉瓦造の建物は何とも言えない存在感と重厚感がありました。建築が時代の流れと共に変わっていく様子が、構内を歩くだけでとてもよくわかりました。



私が一番印象に残っているのは、煉瓦造の物理学実験場です。外観の意匠は簡明なものでも、煉瓦ならではの時の流れを感じさせてくれる肌合いが目に

焼き付いています。

本部構内だけでも全部見学しきれない程でしたが、その後北部構内も見学させて頂きました。その中で出会ったのが、昭和6年に建設された演習林事務室（農学部旧本部事務室）です。木造平屋建て、スペイン瓦葺きの寄棟で、周囲の景観に溶け込んでいる様子がとても気持ちのいい空間でした。



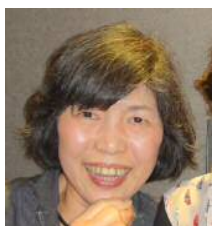
ここから先は希望者だけでしたが、北部構内から更に足を延ばし、北白川の東アジア人文情報センターへ。閑静な住宅街にいきなり現れたスパニッシュ様式の建物は圧巻でした。あれだけ大きな建物でも、景観を邪魔している感じがするのは不思議でした。



最後は、藤井厚二氏設計の個人邸まで、本当にたくさんの建築物を見学させて頂きました。先生方の詳しい説明があり、本当に勉強になりました。

京都大学の周辺には、まだまだたくさんの建築スポットがあり、京都大学を含めてまた何度でも散策に来たいと思いました。

パーキングパーミットの講演を受けて  
梶谷 治美



11月7日(木)18:30より土会会議室にて、今回で二回目となる、研究部会ユニバーサル担当の講演会が開催されました。講師は、天理大学准教授 八木三郎先生です。

今回は、『ユニバーサル社会における障害当事者性の研究 「障害者用駐車場」を事例に』という題でお話を伺いました。

「パーキングパーミット」とは、聞きなれない言葉です。身体障害者用駐車場に駐車する際に、利用許可証を発行する制度の事だそうです。最初は佐賀県で始まり、現在では30県2市が導入しています。奈良県は未導入です。

許可証といっても紙ではなく、ETCの様な受信機を車の中に付けて、自動でゲートを通ることができるしくみです。申請をすれば、全国の導入施設の利用が可能になります。対象者は歩行困難な人です。八木先生も車椅子を使用されておられますが、車を運転していて安心して利用出来る場所が少ない為、このような施設がたくさん出来る事を期待されておられました。

八木先生の資料によりますと、前回の東京オリンピック、パラリンピック以降に、障害者の社会進出が進んできたことが福祉の街づくりを変容させて来たそうです。そこから、生活をする上で物理的、精神的な障害を取り除くバリアフリーが進んでいきます。バリアフリーにより障害者が一般の人と同じ生活を送ることができるようになってきました。

バリアフリーの概念の発展形として発表されたユニバーサルデザインは、障害者だけでなく誰でもが簡単に危険無く使えるデザインです。空間を広く取る事も必要な事です。問題は、誰でも使えるという

ことです。車椅子の人は、例えば多目的施設の公衆トイレは車椅子マークの付いた所しか使えません。でもそのトイレは、病気の方、お年寄り、一般の方まで使われます。駐車場もマークがついている所でないと安全に乗り降りが出来ません。しかし、車椅子マークのついた駐車場には、一般車が止まっていたり使えない事が多くあるそうです。

ここにはもう一つ問題があって、障害者だけが特別扱いされていると思われていることです。

先生から、最後に建築士の方々に施設の計画、設計の段階での車椅子の方や一般の方の両方が使える様にアドバイスと配慮が頂きたいと言っておられました。

私も、皆が同じ立場に立って、思い遣り、優しさを持って設計し、実行できることを期待いたします。





既存住宅の改修にたずさわり、17年目になります。

ももとは大学、仕事も建築とは無関係だった私ですが、結婚後新居を建てる時に建築のおもしろさと出会いました。

最初は内装のデザインやファブリックの選定などインテリアを中心に勉強させていただいていたのですが、飽き足らず建築の世界に飛び込むこととなり、現在に至るところです。

住宅改修にたずさわり始めたころは、下水開通の全盛期で下水工事がきっかけの水廻りの改修や間取りの変更がメインで現場の管理にもかかわり、住宅の改修現場を沢山見てきました。その後増築や改築、大規模改修に携わる機会が増え、現在は間取りや意匠のみならず、構造、劣化、温熱など性能にもこだわり既存住宅に特化し設計を進めています。

なぜ、リフォームにこだわりつつけているのか、リフォームの醍醐味は？って質問されたら「生活してきた場所をさわるので、生活者（施主）が（効果）違いを実感できること」のやりがいなのかなあと 생각합니다。

「替えたら変わった!!」は見た目の美しさだけでなく、安全、安心、健康そして家族の関係や、精神性にいたるまで変化が実感できるものです。

こんなやりがいのある仕事、楽しくて、たまりません。私の中ではそんなトータルな暮らしの提案を「デザインリフォーム」と位置付けています。今後もたくさんの引き出しをつくってもっと役立つ人になり、終の仕事になればいいなあと考えています。

写真は毎年開催されるリフォームのコンテストで受賞した写真です。毎年腕試しをしています。今年

で8年連続入賞できました。1年に1回「がんばったね」ってご褒美をいただけた瞬間です。



2013年度JモデルJP部門最優秀賞受賞





## お知らせ

去る12月7日、女性委員会副委員長 宮崎 眞友美 様が逝去されました。いつも笑顔で建築士会の活動に取り組み、女性委員会でも大変ご活躍されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。



宮崎様を偲んで寄せられましたお声を紹介します。

眞友美さん、貴女はもう珈琲の香り漂うFUGAで、迎えに来てくれることはないのですね。今私は愛娘を失くした母の心境です。それにしても、貴女の葬儀には女性委員会の大勢の皆様がお見送りに来てくださいました。きっと誰よりも驚いたのは貴女、申し訳なさそうに首をかしげる姿が目にかびます。

建築士会で大役を引き受けると、「どうでしょう。やれるでしょうか?」と言いながら、その笑顔には、「頑張ってやります。」の心の内が見えました。これからというのに残念でなりません。どうか、同志の今後の活躍に貴女を重ねて見守って下さい。

(岡田 伸子)

今も「宮崎さん」と呼べば、その角からひよっこり顔を出し、クリクリした目で楽しそうに笑いながら出てきそうに思います。何度かご一緒した旅行で、「遠くから聞こえる力強い足音であなただと分かるわね」と云うと、母からも「もう少し静かに歩けないの」って云われるんです。と又楽しそうに笑うのです。私とは年も違いプライベートなお話も余りしておりませんが、奈良県景観調和デザイン賞部会で共に活動しており、平成25年度部会長として部会を牽引していこうと意欲的に計画を立てている彼女の姿を頼もしく思っていました。根が丈夫な私も去年の3月入院、手術までは最悪な事も覚悟する様に医師から言われましたが、幸い事なきを得ました。彼女が入院と聞いた時も、すぐに退院しているもの笑顔が見れると思っていました。あなたは、輝きながら静かに逝ってしまったのですね。

(安田 千鶴代)

彼女のことを知ったのは8~9年前ごろでしょうか?あまりにも細く何も食べない。熱心に女性委員会の企画に出席はされているけれど、話はしたことない・・・そんな年月が続いておりました。お話しするようになったのはここ4~5年でしょうか。お茶で葉物野菜を洗って食べてたこと、東日本の震災被災地で朝早くからポリポリときゅうりを食べていたこと、おでんのコンニャクばかり食べてたこと・・・食べ物に関することばかり浮かんできます。向こうではしっかりした食生活してね。

(上田 壽子)

私が宮崎さんと出会った最初は、2008年11月8日大阪担当の近建女合同見学会で天満天神繁昌亭と天神橋商店街を見学した時で、私が近建女担当となった初めての見学会でもあり、私にとっては節目のイベントでした。彼女は午前の繁昌亭だけでなく、午後からの大阪市立住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」見学にも参加されました。初めてお話ししたときは、まだ若くておとなしい繊細な女性だとの印象を受けましたが、本当は、芯のしっかりした聡明な、でもかなりの頑固者だったのにね。

それからたった5年の間に、見学会、近建女、全建女、全国大会、1300年祭、女性委員会20周年のへっついさん等、彼女の大活躍で成功した事業は枚挙に暇がないのは、ご存じの通りです。

そして、彼女の最期の知らせは、近建祭の最中、天神橋商店街についての講演の直後に届きました。更にその日の見学会は、なんと天満天神繁昌亭前で集合しての閉会だったのです。

出会いと別れは付き物ですが、宮崎さん、いい思い出をありがとう。でも、すごく残念です。

(本保 万貴子)



## 今後の事業予定

平成26年

□2月 1日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会

□2月 8日 (土)  
第21回近畿あーきてくと2014  
地域実践活動発表会

□2月 11日 (火)  
青年委員会 お菓子の家作り

□2月 12日 (水) ~16日 (日)  
珠光茶会  
茶の由来と大和の茶室  
~おもてなしをささえる か・た・ち~

□2月 15日 (土)  
限界耐力計算講習会  
(奈良県建築士会館 1階会議室)

□2月 21日 (金) 女性委員会新年会(予定)

□2月 22日 (土) ~23 (日)  
青年委員会 奈良の森と木と家のフェスタ出展

□3月 女性委員会 1日見学会 (予定)

□3月 5日 (水)  
建築物の天井脱落防止対策講習会  
(奈良県建築士会館 1階会議室)

□3月 15日 (土)  
近畿建築士会協議会青年部会 京都会議

□3月 17日 (月) 理事会

□3月 26日 (水)  
なら・すまいアップセンター住宅無料相談  
(奈良県建築士会館)

□4月 23日 (水) 理事会

□5月 20日 (火)  
通常総会  
(奈良県文化会館)



### ～ 編集後記 ～

早いもので年を明けて一月が経ちました。年末年始の大変お忙しい時に原稿をお引き受けくださいました方々、本当にありがとうございました。感謝いたします。また会員の皆様におかれましても、本年も様々なイベントや講習会も予定されていますのでどんどんご参加くださいますようお願いいたします。本年も広報活動をしっかりと行っていきたくと思っていますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

記事内にありました宮崎眞友美様のご逝去は本当に残念で悲しいことです。未だに信じがたいことです。編集作業等をしていても彼女ならパッとこなされていたんだろうなあと思うとキーボードの手が止まってしまいます。

どうぞ天国から我々を見守っていてください。ご冥福をお祈りします。

(庄田 尚代)